



第4回

阿蘇市文化協会
広報委員会

異文化の理解



阿蘇市教育長
日吉 純夫

新しい体制で平成十九年度の文化協会が活動を開始したことを心からお喜び申し上げますとともに、阿蘇市誕生以来協会を発足し、発展のためにご尽力いただいた旧役員の方々、に深甚なる感謝と敬意を表します。

阿蘇市は国際環境観光都市を目指しています。その「国際」について大切なことは、「自国と郷土の文化をよく理解し、地域の異なった文化をすばらしいと理解できる」ことが最も重要であると思えます。

三年間滞在していたアルゼンチン共和国では、移住してきた日本人の方々が「日本人は勤勉である。嘘をつかない。正直である。時間を守る。」などの日本の文化を生活の中で示され信頼を得ておられました。その結果「日本人です」と言うだけで、親しみを持って接してもらえました。しかし、今、この日本の文化はどうなっているのでしょうか。もっと国際的に信頼を得る日本の文化を大切にしたいものです。

すなわち、「英語が良くできる」とか「外国のことを良く知っている」ということではなく、日本人としての生き方、在り方を確立することが国際人となるために重要で、それが確立されれば、外国の人々、あるいは他の地域から来た人々の異なっ

新任にあたって



阿蘇市長
文化協会長
後藤 新一

暑中お見舞い申し上げます。阿蘇市民及び文化協会の会員皆様方にはますますご清祥のことと推察いたします。

本協会も合併後三年目を迎え、着実に地域社会の文化や産業の振興発展に少なからず寄与しているかと思えます。私共役員につきましても、去る四月の総会において推挙され、

た生き方、在り方が理解でき、批判したりすることなく、信頼関係を築くことができず。すなわち、言い換えれば「自分との違いをすばらしいと理解できれば国際人である」と言えると思えます。

力のある限り率先して本協会の振興発展に邁進するものであります。しかしながら協会として、自助努力と切磋琢磨する事は大切ですが、市役所の温かいご支援とご教示なくしては持続できないことでもあります。

ご承知のように、本協会は文化の向上と普及は勿論のこと、会員相互の連絡協調にもとづき、協力を譲り合いの精神をもって成り立つ公的自主的の団体であるかと思えます。

本協会の十九年度主たる事業につきましては、協会一大事業でありまして第三回文化祭(十月十三日、十四日)の開催をはじめ、広報誌「噴煙」年二回発行、研修会、講演会、観月会等々、また各種の文化事業に関連する後援や協賛など参画の予定であります。特に文化祭の開催にしましては、通年ならば十一月上旬でありましたが、会場の都合により早めの日程となり現在文化祭実行委員会を設置し、専門部門ごとに協議中でありまして、本協会の役員執行態勢に関しましては、後藤の通り構成し、初期の目的に向かつて鋭意努力致す所存でありますので、会員皆様方の熱意あるご支援とご協力を切に念願するものであります。市民皆様方のご健勝とご繁栄を衷心よりご祈念申し上げます。新任の挨拶といたします。

あいさつ

副会長 山部謙一郎

去る四月二十四日の阿蘇市文化協会総会に於いて副会長の大役を仰せつかりました。宜敷くお願い致します。私自身は、詩吟部門の指導者として、合併後の第一回文化祭から、生徒さんと共にステージ部門に出演致しましたが、二日間におわたる役員の方々、の献身的なお世話により、多くの出演者の方々がそれぞれの分野に於いて、もてるものを全て出し切って演技に没頭され、また多数の観客の皆様方が惜しみない拍手をおくる、その姿は誠に尊いものだと思えます。展示部門に於いても出品者の汗の結晶とも言える作品が整然と展示されていることに感動さえ覚えました。

全ての演目・展示物等は一朝一夕にしてなるものではありません。これらの全ては既に文化として認められ、しかも毎回レベルがアップしております。その結果として阿蘇市の文化度を向上させているのではないのでしょうか。大変嬉しいことでもあります。この度、執行部の中に入って一つだけ気になることがあります。それは若い人が少ないということです。確かに一芸に秀でる事には多くの歳月が必要でありますので、高齢化という問題は避けて通ることが出来ませんが、会員の減少という問題を引き起こす事にもなりかねません。今後の大きな目標として若い人につなげるという崇高な課題をそれぞれに分野に於いて実現していただきたいと思えます。

阿蘇市文化協会役員構成図



「他山の石とする」

展示委員長 関 英 輝

同好会の仲間と油絵を楽しんでいます。毎年、私たちの絵画教室は17世紀に描かれた世界的な名画を模写することから始まります。名画を模写することで絵画の基本を学び、描くことの感動を味わいます。また、時に熊本市内の美術館で開催される絵画展に出かけ、活躍されている画家の作品を観賞します。多くの作品から感動を受け、優れた技法を吸収することが、次の創作活動のエネルギーとなつていきます。

文化協会の皆さん、「他山の石とする」という言葉があります。よその山から出た相違な石でも自分の玉(自分の才能、人格)を磨くのに役立つ。反省の材料にする。(広辞苑)とあります。文化祭で、皆さんがステージ上で演じる日頃の研鑽の成果や、出展されている作品は、たとえ同じ分野でなくても、お互いに「学び」「感動」するものが多いと思います。ある会員の方のご意見をご紹介します。「自分のステージが終わればそれで終わりではなく、他の会員のステージをしっかりと観賞し学ぶ心がけが必要で、また、ステージ部門の出演者もしっかりと展示作品を見て楽しむことが文化祭参加のマナーではないでしょうか」と指摘されています。

また、昨年の文化祭(第二回)後の反省会でも「協会員は、他の会員のステージや展示作品に関心を持ち、開催期間を通して文化祭を盛り上げましょう。第二会場(第二体育館)へもつと脚を運びましょう。」との意見が出されました。自分のステージや展示作品の出来映えも大切ですが、文化祭の全てを「学び」と「感動」の機会としたいものです。

文化祭も第三回目となります。文化祭を準備し運営していく中で、まだまだ多くの工夫や改善すべき点があるのではないのでしょうか。市民の

皆さんが、期待をもって文化祭に参加していただくために、会員としてのマナーをはじめ、もう一度初心にかえり、「第三回阿蘇市文化祭」を成功させたいと思います。

ステージ委員長 山部 七 生

去る六月二十五日の役員会におきましてステージ委員長のご指名を受けました。

今の道に入門致しまして既に四十余年、今までの文化祭におきましても大なり小なり参加協力を致して参りました。

この年になって今更という思いがありましたが、現在の高齢化社会の中におきましては、まだまだ中堅どころの働き盛り、戸惑いを感じ乍らもまずはこの一年頑張ってみようかという気持ちになりました。

市制三年、会員の皆々様の御協力により、大方の基礎作りも出来上がっています。しかし、何かと解らない事はばかりですが、前岩本委員長の助言等を頂き、また経験豊富な伊藤副委員長の御協力、更には役員の方々の理解あるご支援のもと、足手まといにならないよう委員長としての責務を全うしたいと思います。

フラダンス

齊藤 英 子

私がフラに関心を持ったのは、高校の同窓会で友達が見て、自分も一緒に踊る事が出来たらと思つたのが始まりでした。近くのお友だちに呼びかけ、五人の方の賛同を得て一緒にフラを習う事にしました。もちろん先生は同窓会で踊っていた友達にお願いしました。最初は、基本練習から始まりましたが、思うように手が動かず、腰がふれず、フラのむずかしさを知りました。最初に舞台で踊ったのが敬老会の時でした。私たち

のつたない踊りに、敬老者の皆様は拍手をくださいました。

文化協会の会員となり、和気あいあい楽しく練習を行っています。今年三名の参加があり十三人となりました。仕事で疲れていても、フラを踊り始めると、疲れも忘れ、良い運動になっていきます。文化祭で踊るという目的があることで、練習にも動みが出て、良い勉強になっていきます。今後とも体の運動のため続けたいと思っています。

「日舞」

豊後 暁 美

阿蘇に越して来て十五年になります。「光陰矢の如し」と言いますが、アツという間の年月でした。歴史が豊富な阿蘇市。越して来た時は、何ですばらしい所だろうと、日々感動の毎日でした。自然がいっぱいで四季を感じさせる景観の見事に、うっとりするばかりです。

阿蘇にはすばらしい伝統文化が沢山あります。日本舞踊も古き良き時代からの伝統文化であり、歌舞伎などと同じように、江戸時代の人々に愛され発展して来たものです。大切な日本文化の一つだと言う事を、一人でも多くの人達にわかってもらいたい。

古典舞踊は三味線、太鼓、鼓など音をとっての動きが本来の姿です。難しいとか眠くなる等と敬遠されがちですが、皆さんが思われている程ではないのです。奥が深いので中に入って行けばここで終わりと言う事はありません。いかに皆さんにきれいな姿、形をお見せ出来るか、いつも角度のことに注意します。何でもそうでしょうか、基礎が出来たら後は簡単です。稽古をつけていくなかで、どういう風にして舞踊の流れるか、時と共に移り変わって来たのだろうか?何故あの舞踊が、あの時の人々にもてはやされたのだろうか?何故この曲が、今の人に新鮮な響き

をもたらずののだろうか?日々疑問ばかりで、毎日の課題は山積みです。すぐそこに文化祭が控えています。鑑賞者の厳しいお客様に対して、納得のいく内容の踊りを見て頂くためにも、努力をしていかなければと思つてます。一人一人の努力が積み重なつてこそ、素敵な舞台が出来上がります。夏から秋にかけて一層熱気に溢れる状況が続くことでしょうか。大きな輪となった市民文化祭、皆さんと共に成功に導きたいですね。

大正琴

志賀 徳 子

大正琴は、その名が示すように、大正元年名古屋の森田吾郎の手によって発明された楽器で、独特の哀愁を醸し出す音色により、当時の大衆楽器として爆発的な売れ行きを示した。しかし、戦争色が濃くなるに連れ姿を消していった。戦後明治百年を契機として再び脚光を浴びるようになって来た。阿蘇市でも、そう多くの人達に奏でられていない方ではないけれど、輪は徐々に拡大して来ている。

私達も「琴城流」の指導をして下さる八木先生の社中も、生進学習十二名(第一・第三月曜日)四年前生進学習のメンバーが多くなり、分かれて六名は乙姫の公民館を借りて、第一・第三木曜日に練習するようになつて、人数も増えてきた。また、二年前から一の宮農協婦人部八名も八木先生の指導を受けられるようになった。その他には、旧阿蘇町には「いとこ会」六名の会もある。

旧一の宮町には、琴遊会(十五名)、ゆうすげ会(十六名)、阿蘇美会(六名)とあり、増加の道をたどっている。大正琴は、家で一人で練習できるし、琴の持ち運びも軽し簡単だし、指先を使い、頭を使って活気のある日々を送ることが出来る。一曲弾けるようになると、喜びも一入である。近況報告になってしまったが、多くの方々参加を希望している。

三味の音に魅せられて

聖士会会主 坂本 聖子

確か昭和五十一年の、月日は定かではありませんが、ある友人から「三味線をしてみませんか。」と声をかけられたのを記憶しています。当時三歳と六歳の育児に追われ、多忙な生活でしたので、趣味を楽しむ余裕は全くありませんでした。けれども、思い切つて主人に打ち明けたところ、主人から「やれるなら、やつて良いたい。」と言われたことを今も鮮明に覚えていてます。

一週間後、安い三味線を購入し、私の三味線との付き合いが始まりました。あれから三十二年、何をしても三日と続かなかつた私ですが、良くも続いたなあと思ひ深いものがあります。人生は山あり谷ありの波乱に満ちた生活の積み重ねですが、三味の奏でる音が、落ち込んだ自分を癒し、時には勇気づけられたように思います。本當の続けて良かったなど、今つくづく思います。

ここで三味線について少し紹介いたしますと、三味線は三弦の糸しかなく、それを弾くことで特有の音色を奏でる日本伝統の楽器だと言えます。また、短棹、長棹、太棹等種類はありますが、基本は変わりません。しかも、身近に置いて狭い場所でも稽古が出来る特徴があります。ただ自分の体の調子で微妙に音色が変わるといった繊細さもあり、人を引き付ける心に響く音色を奏でるには、かなりの年月と努力が必要です。しかし、少しづつ上達することで更に上にと意欲を湧かしてくれれます。楽しい楽器です。現在、仲間の輪も広がり、つかの間の時間を楽しく過ごしています。趣味程度のものですが、稽古日が来るのが本當に楽しく、しかもたくさんの仲間と出会う中で、人の心の温かさに触れるにつけ、喜び、感謝しています。つい先日、ある施設を訪ねたとき「よかつたよ、又来てはいよ。今度は何時来てくれるとね。」

等の言葉が返ってくると思ふやうな気が湧いてきます。これからは仲間と一緒に、福祉施設、敬老会等のボランティア活動、又イベント等の演奏活動を通して一人でも多くの方に喜んで戴けるよう頑張っていきたいと思ひます。

絵画を学んで

池邊 稔子

絵画クラブに入会して早五年過ぎました。学生時代以来、絵筆をにぎつた事なかつた私が、主人の定年退職で古里の阿蘇に帰り、大自然の山々に囲まれて、四季の阿蘇山を描いてみたい。そして根子岳を、次々と構想があふれて、水彩画、油絵と先生から教わり、静物を水彩画で描くのがおもしろく、草、花は描いていけるうちに色も変化したり自然とのふれあい、いかに花や野菜の季節感や質感、立体感を出すのに苦労しました。

油絵は又ぬり直しがきき、色の変化を楽しめて遠近感、立体感を油絵で描くのも楽しいです。油絵は初めてなので一寸難しかったです。色々と一流の画家の絵を見るのも楽しみで、今度はあんな色を使つてあんなタッチで描いてみたいなあ等色々想像します。

阿蘇は、阿蘇神社のお祭りが一年に何回もあるの、お神輿や火振り等描きたいものがいっぱいあります。難しく実際にはなかなか絵筆が取れません。でも、いつかは挑戦してみようと思ひます。

私はたまに海外旅行へ行つた時、写真を撮つて頭の中にデッサンをイメージして何枚か描きました。旅に出た時、ここは絵にしたらすばらしいと思ふ所がある時にはデッサンします。未熟な私ですが、先生の指導で絵は自由に自分の感じた事を表現するのだと言ふ事を学びました。絵は上手ではありませんが、表現の楽しさを味わいました。みなさん、絵

画に入会して挑戦してみたいかかですか。新しい自分を発見できると思ひます。

一の宮書道教室

中島 アキヨ

私達の書道教室は、自主講座になっておりますので、場所だけ社協センターをお借りして木村信子先生の指導の下、男性三名、女性二十六名、計二十九名で月二回に学習しております。

私は昭和六年に尾ヶ石西部小学校今の阿蘇西小学校に変わつていますがそこに入学しました。当時は一年生から書き方として硬に墨を摩つて筆の持ち方、姿勢を正しくと大変きびしくおそわつておりました。一年生の一番初めに習つた字が「ハナハト マメ マス ミノ カサ」と書いた事をよく覚えております。私が六年生になった時、「磨かずば玉の光は、そむざらん、人も学びてのちにこそ、誠の徳は現るれ」と条幅に書いて展覧会に出し、何かの賞を戴き、それから書道が大変好きになりました。女学校まで続けておりましたが、それから何十年か書道の事は忘れていました。

生涯学習が始まりました。もう二十年代になると思ひますが、その時から又書道教室に入つて今に至つております。中々上手にはなれませんが、自分の好きな道、体の続く限り続けていきたいと思つております。今、パソコン、ワープロと字を書く事も余りなくなりつつありますが、昔からのこの書道だけはなくなつてほしくないと思ひます。

私達の教室も、私をはじめ高齢の方が多くなりつつありますが、木村先生の熱心なご指導の下、今文化祭に向かつて一生懸命頑張つておられるようです。終わる前には池邊先生先生の指導でやさしい体操もしてラックスしてあります。今年新しい方二人入りましたが、お年寄りの方でも若い方でもどしどし書道に入

られて、練習されたら如何でしょうか。お待ちしております。

短歌 (ゆふすげ)

会員十九名のため、二回に分けて掲載させていただきます。

親しげに山芋のつる伸びてきて
今朝わが関の窓にとどけり
村上 尚義

梅雨の雨しとど降りつつ紫陽花は
亡母の好みし藍に色増す
猪飼 誠子

中国の漢字の看板覗しみて
十三億人の中に紛るる
市原ふみを

散り散れる椿の中に青一つ
幼が忘れし小さきシャベル
今村由里子

耐えゆくを美徳とされし燈を生きて
師の遺影にしばし動けず
大塚 武子

酔いしれておふくろの歌は寂しいと
いふこの子も今宵父となりたり
川上喜代子

しあわせとは言えぬ一夜の弟よ
意識なき手をにぎりしむのみ
菊地 ツヨ

繚乱の花美しとながむれば
朝日透かしてひとひらが舞ふ
小糸八枝子

一斉に庭の草木の芽吹くとき
笑まふ曾孫の歯も生え初むる
坂梨 道子

爪紅の茜色した孫の指
小さく染めて真夏日終わる
志賀キヨ子

押し花教室

山本 浅子

押し花と云えば、幼き頃四つ葉のクローバー、もみじ、小花等、本にはさんでは楽しんだものでした。今は高度な技術の加工によって、草木や花のきれいな自然の色を残す「ふしぎな花倶楽部」といった押し花を教室で学んでいます。講師は名の知られたすばらしい渡辺智子先生に恵まれ、只今十一名の学習生で月二回学習しています。

去る七月三日、熊本鶴屋ホールにおいて、熊本城築城四百年を祝って「押し花 渡辺智子先生教室作品展示と大庭照子さんDYO組による記念コンサート」が開かれました。ステージ一杯に熊本城の押し花が飾られ、私達の教室からも七点ばかり仲間入りしました。多彩な作品が会場一杯に飾られ、コンサートが開かれ、なつかしい童謡「赤いくつ」、「ふるさと」等々聞き、会場の皆で口ずさみ楽しいひとときでした。十月には「全阿蘇押し花コンクール二〇〇七」が福岡大牟田で開催されます。それと挑戦するため、私達一同、頑張って七月初旬に出品しました。このように次々と学習が行われています。一方「すみれ会」といった押し花教室が役犬原で開かれています。この教室は、旧阿蘇町農政課の中に生活改善グループの活動として平成三年に押し花教室が取り入れられ、今年まで十七年間渡辺智子先生のもと続いていきます。会員は九名、今年の文化祭に向けて只今お祝いの鶴の押し花絵作りに取り組んでいます。文化祭には、鶴の押し花絵が登場することでしょう。すみれ会の皆も押し花にはひとしお興味があり、熱心そのものです。自分なりに想像した絵の上に草花を一枚一枚重ねて作り上げる押し花絵、完成した絵を見る喜びはひとしおです。趣味の多い私ですが、その中でも一番力が入るのは押し花！私にとっても押し花は「生きがい」です。残りの

人生、押し花だけは続けたいものです。



六十の手習い

河津 寿也

退職後の過ごし方は、先輩、友人から健康管理、ボケ防止等色々アドバイスを受けていました。さて、毎日が日曜日の連続となりました。一向に考えが纏まらず、まず手始めに森林浴を兼ねて天気の良い日、午前中だけ山の手入れに開伐をしてみることにしました。

現場で木の太さ、間隔を考え、鋸を入れ倒し始めてみると、なかなか計算通りに倒れず失敗ばかりで、力任せに切る内、体いつぱいの汗、それに腕もこわばって来て小休止。汗を拭きふき空を見上げての一服は、また大自然光と空気を体いつぱいに満喫できる最高の一時ではないでしょうか。その内、機械にも慣れて来た成る日、仕舞い仕事で、後一本切るつもりでエンジンを起こし、曲がり木を切り始め、三分の一程度切ったところで倒れ始めた途端、パインという音と同時に木の根元が跳ね、チェンソーはそのまま下の谷へ、我が身は逃げ遅れて下の谷へ、顔を上げてみれば、我が顔の横でエンジン

の音。生きた気もせず手も足もガタガタ、山の神様に両手を合わせて何回もお礼を申し上げ一目散に自宅へ。それっきり山仕事は中断の状態で、その後、友人の誘いでゴルフに熱中、百を切る夢を求めて月に三、四回程度の芝はぎ修業、誘われる毎に別の同好会に加入、大会毎にパートナーの足引つ張り役で、何時もテールエンドの成績ばかり、百の壁は切れず参加賞、飛賞程度で、たまに入賞すればのし紙を張り直して参賞賞とし、家族に自慢話をしたものでした。その頃から区の雑役を幾つか受けることになり、ゴルフの回数も減り始め、ゴルフ仲間も疎遠となってしまいました。丁度、熊本の友人から美術館のシルバークラフト展の案内があり見学した所、すばらしい水墨画が数多く展示してあり、その内容の濃さに圧倒されました。其の後、友人の紹介で熊日生涯学習講座の西先生に月二回二時間のご指導を約三年間受けました。その頃波野村の文化祭を見学したところ、すばらしい水墨画が展示してあり、地元にも優秀な先輩が居られることを確認し、意を強くしたものでした。

以後、阿蘇町文化祭展示のお許しを得、毎年出品し展示物の末席を汚してあります。恵まれた阿蘇で、同じ趣味を持つ先輩の方々、年に一度の機会です。勇気と自信を持って一点でも出品して花を添えて下さい。恵まれた阿蘇から水墨画の灯りを消さないよう、愛好者の御協力をお願い致します。以上何をさせても持たあかない、六十の手習いを紹介しました。

事務局だより

阿蘇市文化協会

事務局長 下村 勝志

阿蘇市文化協会もお陰様で三年目を迎えることとなりました。そして、

広報誌「噴煙」の発行の第四回目となり、会員の皆様の積極的な協力と阿蘇市の一方ならぬ高配の賜物と感謝いたします。さて、今年の総会におきまして、文化協会の役員が改選になりました。旧役員の皆様、永年に渡り文化協会の為にご尽力を戴き有難うございました。会員一同にかわり心よりお礼申し上げます。新たな体制で平成十九、二十年を頑張りますので、会員の皆様また、市民の皆様、宜しくお願ひします。そこで、阿蘇市文化協会の会員入会状況ですが、一五一団体で会員数は約一、二九〇名になっております。文化祭は十月十三、十四日の二日間を予定しておりますので、会員のご協力をお願いします。投稿いただき有難うございました。

広報委員会



暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様お忙しい中に文化祭に向けてご活躍のこととお慶び申し上げます。阿蘇市文化協会も皆様の協力のもとに、お陰様で三年目を迎え、広報部一同「噴煙」、文化祭プログラム作成と頑張っております。文化祭が大成功に終わりますように頑張りたいと思います。会員の皆様のご協力とご支援をよろしくお願ひいたします。

- ・山内スミ子
- ・大塚 武子
- ・市原ふみを
- ・山下 幸代
- ・齊藤 英子
- ・岩瀬 洋子

ご投稿いただいた皆様方、ご協力ありがとうございます。